

連載コラム

～ コーチングコミュニケーションが人を育てる ～ <第28回>

ユッキーのオランダ日記①「怒らない先生たち」

みなさま、春ですね～！あっという間に野山が色づき始めました。
おかげさまで、私は3月にオランダへ行ってきました＼(*´▽`)ノ
まだチューリップは咲いていませんでしたが、オランダの電車に乗って、
車窓から牧草地と牛たちを眺めながら、様々な場所に出向き、
オランダの教育についてたくさんの学びを得てきました。
チーズが好きな私は興奮しました！エダムやゴーダはオランダの地名なのです。
ハードタイプのパンにチーズやハムを挟んだものを毎回食すのですが、
これがシンプルながらとても美味しいです。

さて、オランダはいろいろな意味でカルチャーショックの連続でした。
教育のシステムも方法も日本と全く違いますし、大麻が吸えるお店はあるし、
道行く男性はみなさん背が高くて超イケメン揃いですし(//▽//)、
同性婚のカップルも多いので、親が父母ではなく、父父や母母という家庭も普通です。
またすぐにオランダに行きたいと思うほど、刺激的な国でした。

オランダでは小・中・高校へ行って、オランダのいいところ、
日本のいいところに気づくことができました。
ということで、今回はユッキーのびっくりオランダ日記をご紹介しますね。

まず驚いたことは、オランダには子どもを怒る大人(先生)がいないのです。
たとえ生徒がいたずらをしたとしても先生は怒鳴らない。
私は、リーン校長(オランダで最も素晴らしい学校に贈られる賞をもらった小学校の校長)に
あえて訊いてみました。「なぜオランダの先生は怒らないのでしょうか？」
すると、いつも笑顔のリーン校長が、真剣な眼差しでこう答えたのです。
「教師という職業は、自分の感情で怒ってはいけません。
まずプロとして、教育学的に子供とはどんなものなのかという知識を持っていなければならない。
そしてもし子どもがなにかをしたら、なぜこのようなことをしたのか「背景」を考える。
後ろにある可能性を10コ考えます。
教師が自分の感情で怒ってしまえば、子供の成長につながらないのです」
リーン校長はこの後、いけないことをしている子供への具体的な声かけを例に出してくれました。

怒るのではなく、客観的に自分を見ることができる「質問」をすることで本人に気づきを促します。
は～～！オランダの先生はプロだな、と感じました。

日本で暮らしていると、親はもちろんのこと、先生やスポーツの指導者の仕事のひとつは「子どもを怒ること」なんじゃないの？と思えてくるが多々あります。
でもオランダの子どもたちを見ていると、怒らなくても、子供たちはちゃんと自分で考えて、行動変容できるのです。たとえ4歳児でも、です。本当にしっかりしていました。

さらに、リーン校長は「ただ褒めるだけでは意味がない」といいます。
特に「結果をほめるのは意味がない！」とのこと。
この続きはまた次回、お話ししたいと思います。オランダ日記、つづく。

プロフィール

阿部 侑生（あべ ゆき）

ドリームフィールド代表。

文部科学省認可（財）生涯学習開発財団認定プロフェッショナルコーチ。

フリーアナウンサーとしてミヤギテレビ「OH! バンデス」(95～04)等、レギュラー出演、その後、ビジネスコーチとして独立。

「コミュニケーションスキルの向上」「自発的な部下の育成」

「子どものやる気を引き出すコーチング」「人生を変えるスマイルパワーについて」等をテーマにしたコーチング研修、コミュニケーション研修講師として活動中。

経営者、起業家へのパーソナルコーチングも行っている。